

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2021

8

vol.284

役員就任のご挨拶

代表理事組合長

紺野

宏



残夏の候 組合員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

去る、六月二十四日の第二十八回通常総会において役員改選が行われ、総会終了後の理事会において代表理事組合長に選任されました。

もとより浅学非才の身であります。福島県酪農の発展のため誠心誠意取り組んで参る所存です。

さて、平成二十三年三月十一日の東日本大震災並びに東電原発事故から十年余が経過しました。以前より懸案事項でした被災地域農業復興総合支援事業による避難指示解除地域での復興牧場建設に数年前より取り組んできました。建設予定地が二転三転しましたが、本年六月に事業実施に向けた事業連携協定を浪江町・

全酪連・県酪農協の三者にて締結することができました。

今後は、令和七年の牧場の本格稼働に向けて引き続き浪江町と連携を密にし、福島県酪農の復興・生産基盤の確立を目指し推進してまいります。

一方、休業中の五四戸の酪農家においては、高齢化や避難先での酪農外の仕事に従事するなど、地元帰還や営農再開は、先の見えない状況でした。しかし、浪江町での復興牧場建設が現実味を帯びてきたことにより直接・間接的に関わってくださる方々が出てきました。新たな動きです。

当組合は、震災以降組合員数の激減、出荷乳量の減少、伸び悩みの状況が続いています。そのような中、本県の酪農の経営形態も少しずつ変化してきています。が、やはりかなめである家族経営をしっかりと守り次世代につなげるための環境づくりに注力することが、第一義であると考えます。そのために、酪農家の所得向上はもとより経営継続につながる施策の実施に邁進していく所存です。

今回の改選では、理事八名、監事三名と大幅な改選が行われましたが、役員員一丸となり事業を推進してまいりますので、皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。終わりにあたり、今期で退

役員就任のご挨拶

常務理事

佐藤 幸光



日頃より、組合事業にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る六月二十四日開催の第二十八回通常総会において役員改選が行われ、総会終了後の理事会において、常務理事に選任されました。

酪農組合といたしましては、昨年策定した「福島県酪農協・酪農ビジョンII」を基本とし、「力強く成長し持続可能な安定した酪農経営」に対する取組みに対する応援をすることとしております。

また、第八次中期経営三カ

任されました宗像実前組合長、一月に急逝された安斎利勝様をはじめ六名の方々には、第七次中期経営三ヶ年計画の実行にご尽力いただきましたことに心から感謝を申し上げます。就任のご挨拶といたします。

年計画では「組織機構の変更と事業体制の再構築」を掲げ、コンパクトな組織を目指しております。

更には、第八次中期経営三ヶ年計画を実践すべく、スタートの年度として、令和三年度の事業計画で、「将来を見据えた生産基盤の推進」を図るため組織力の結集や、本県酪農の持続可能な安定的発展に向けて、(株)酪王乳業・らくのう乳販(株)とのグループ連携し、将来にわたって組合員皆様の負託に応えるよう、事業を展開して参ります。

酪農生産基盤の脆弱化、組織機構の変更と事業体制の再構築、復興牧場の建設推進など、大きな変革期とプロジェクトを目前とした中での、常務理事という大役を仰せつかり身の引き締まる思いであります。誠心誠意努力する所

存です。

組合員・役員・関係機関の皆様のご指導・ご協力により、組合長・副組合長を補佐し、その重責を果たしてまい

役員退任のご挨拶

宗 像



盛夏の候、組合員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

先日行われました、福島県酪農業協同組合第二十八回通常総会をもちまして、代表理事組合長を退任致しました。在任期間中は役員をはじめ、組合員の皆様にご協力をいただき、二期六年間、無事任務を終えることができました。ありがとうございます。

就任当時は、東日本大震災・東京電力福島原子力発電所事故から四年目の年であり、フェリスラテ建設の最終段階でした。その年の秋口から牛の導入が始まり、搾乳が開始

りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご発展とご健勝をご祈念申し上げ常務理事就任のご挨拶とさせていただきます。

されました。福島県復興のシンボルであるため、当時の安倍総理大臣をはじめ、農林水産大臣・復興大臣等に相次いで視察においていただき、復興牧場としてのフェリスラテの活躍に元気をいただきました。

それから、第三の復興牧場を浜通りにといいたいから、南相馬市に用地の確保を求めましたが、地域の反対や水の確保が困難であるため断念。その後、浪江町にお願いしたところ、用地と水の確保ができ、地元の理解もいただくことができましたため、本年六月に浪江町・福島県酪農業協同組合・全国酪農業協同組合連合会の三者にて酪農復興事業に関する連携協定を締結し、令和七年完成を目指して始動しました。

また、昨年から新型コロナウイルス感染症が流行し、世界はもとより日本においても

常務理事退任のご挨拶

岡 正 宏



晩夏の候、皆様にはご健勝にお過ごしのことと、ご拝察申し上げます。

この度、六月二十四日開催の第二十八回通常総会に於きまして、組合の常務理事を退任致しました。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

顧みますと、昭和五十三年に福島県酪連に入会以来、職員として三十七年、常務理事として六年の、合せて四十三年の永きにわたり務めさせて頂きました。

経済混迷が続いております。そのような中、牛乳においても需給調整が難しい状況であり、加工原料乳の増加が見込まれております。

現在の日本酪農はメガ・メガファームが台頭し、家族経営との二極化が進んでおりますが、福島県の酪農は家族経営が多く、協同組合が重要であり、今後も協同組合の理念に則り、組合運営をお願い致します。

末筆になりますが、酪農家の隆盛と福島県酪農協の発展・活躍をご祈念申し上げます。

てきました。休業者の個別再開を果たすことは出来ず、十年を経過した今でも四十九戸の組合員は休業を強いられています。

しかし、新たな復興の形と生産基盤の確保のため、被災地浪江町にシャインコーストファームを建設することが実現できたことは、復興の仕上げとして喜びに堪えません。

また、シャインコーストファームの完成に合わせ、酪王乳業と東北協同乳業の合併により新乳業「酪王協同乳業」が発足し、本宮市に新工場が増設され、県内の生乳を一手に引き受けることができ、乳業が誕生し、「生産から販売まで」の農協精神に則った形にできましたことは、諸先輩方から脈々と引き継がれた精神の賜物と感謝申し上げます。

昭和五十四年には酪農業界初の生産調整が実施され、平成十二年と二十二年には口蹄疫の発生、平成十三年にはBSEの発生、平成十九年にはブルセラ病の疑似感畜の発生そして極めつけは平成二十三年東日本大震災と福島原発事故の発生と、まさに予測だにしない出来事の連続でした。

特に、原発事故は未曾有の出来事であり、酪農産業の崩壊の危機を感じていました。いかにして生乳の出荷再開が出来るのか、どうすれば牛を移動出来るのか、道を作りながらの対応の日々は今でも忘れることは出来ません。

県全体の被災復興から休業者への再開対応へと変化する中で、ミネロファーム、フェリスラテと復興牧場を建設し

残念ながら、新しい未来に携わることなく去ることとなりましたが、後輩諸君がしっかりと引き継いで頂けると心強く思っております。

四十三年間思い残すことなく過ごさせて頂きましたことに、心より感謝申し上げますとともに、組合員皆様のご健康とご多幸、福島県酪農協の益々のご発展を心からお祈り申し上げます、退任のご挨拶とさせていただきます。

第49回全国酪農青年女性酪農発表大会開催 東北酪農青年女性会議代表として、県南酪農研究会 清水 大翼さん出場!



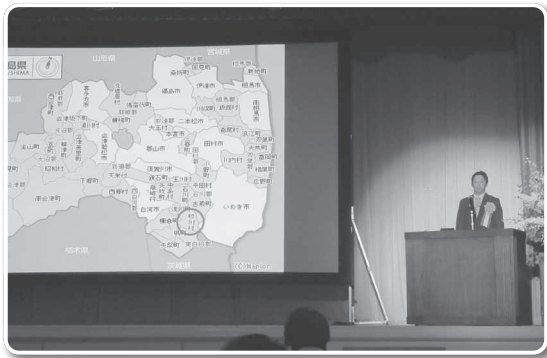
令和三年七月十五日(木)宮城県仙台市「江陽グランドホテル」において、第四十九回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一年延期され、発表者にとっては待ちに待った発表大会となりました。コロナ禍であり、感染対策や開催方法等、多くの問題を抱えながらではありましたが、無事に全国大会を実施することができました。会場には発表者と関係者のみが集まり、オンラインにより全国の酪友へ配信されました。

本県からは、意見体験発表の部に東北を代表して県南酪農研究会清水大翼さんが「ゼロからの牧場作り〜明日への翼〜」と題し、発表されました。惜しくも、最優秀賞は逃

しましたが、新規就農までの道のり、多くの夢の実現に向けた取り組みを発表し、素晴らしい発表でした。

審査講評では、「自分の夢を明確にもち、次々に実現に向けて取り組んでいる行動力が素晴らしく、夢と希望を多くの人に発信していつてほしい」とありました。最優秀賞の矢澤さんも、清水さん同様新規就農されており、類似している点もありましたが、学生時代から酪農家になることを夢見て、四十四歳にして新規就農し、海外実習生も受け入れながら働き方改革、自分の経験を踏まえた新規就農者への力強いメッセージの発信が高く評価され、最優秀賞となりました。

経営発表では、東北酪農青年女性会議の宮城県 菊地武士さんが最優秀賞を獲得し、「ゲノミック評価を利用した個体改良・個体乳量増加に取り組み、将来的には一五〇頭の牛群にしたい」という経営ビジョンを発表されました。自給飼料作付け、耕作放棄地や耕畜連携等にも積極的に取



り組んでおり、高水準の酪農経営が高く評価されました。意見体験発表・酪農経営発表とともに、令和という新たな時代を象徴する発表内容が多々、Youtubeを利用した酪農情報発信、新しい牛乳・乳製品の飲み方の提案、ゆとり確保のための働き方改革、SDGsへの取り組み等、今までにない取り組み内容が発表されました。

今回の発表大会は、Youtubeにて動画配信される予定となっております。詳細につきましては、後日ご案内致しますので、当日視聴できなかつた方はぜひご覧ください。

来年の全国酪農発表大会は、記念すべき第五十回大会（東京）となります。コロナが終息し、多くの方に会場に足を運んでもらい、盛大に開催できることを願っています。

審査結果については以下の通りです。

◆酪農経営発表の部
農林水産大臣賞

「既存の牛舎で生産倍増計画と遺伝子改良で夢の一万四千人牛群へ」
菊地 武士 氏

（東北酪農青年女性会議）
審査員特別賞

「これが私の生きる道〜どうせやるなら好きなこととして稼ぐ！土地も守る！地域貢献もする！所存でございます〜」
鎌塚 智子 氏

（関東甲信越酪農青年女性会議）

◆酪農意見・体験発表の部
最優秀賞

「夢は叶う〜新規就農五年目〜」
矢澤 一郎 氏
（関東甲信越酪農青年女性会議）

FD24会

第二十五回通常総会を開催

去る七月二十七日、本宮市にある福島県酪農業協同組合本所にて二十五回目となるFD24会（会長・佐藤弘永）の通常総会を開催しました。

出席者については、前回に引き続きコロナ禍という事で、役員と新役員候補のみ出席による書面議決での開催となりました。表彰についても発表のみとなりましたが、令和二年度乳量出荷者表彰と乳量前年対比一〇三%基準達成出荷者表彰を行いました。最高位出荷者には雪割牧場(有)をはじめ、上位出荷者十名と一〇三%基準達成出荷者九名には、記念品の贈呈をもって表彰とかせさせていただきました。



また、提出された議案も全て可決・承認され、役員改選では新会長に県南の中野目正明さん、副会長に県中の遠藤明さん、監事に浜の門馬秀昭さんと県南の添田勉さんが選出され、新たなメンバーでのスタートとなります。

新型コロナウイルスの感染者数は相変わらず落ち着きを見せておりませんが、状況を見つつ各種事業を企画・実施して参りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



DCC（体細胞）簡易検査 本所開始!! ~乳成分低下と乳房炎対策について~

本年は7月中旬の梅雨明け以降、連日真夏日が続いており全国的にも記録的な猛暑が報道されております。組合員の皆様におかれましては、暑熱対策（乳成分・乳房炎）について大変苦心されていることと思っております。

ここ数年は9月頃まで残暑が続いておりますので、これからの暑熱対策の一環として、本所でもD

CC簡易検査を実施することといたしました。従来通り、各事務所（県北・県中・県南・浜）でも検査は可能ですので、ご都合に合わせてDCC簡易検査を是非ご活用下さい。

問い合わせ：購買畜産課・販売課 まで。

福島県酪農業協同組合 本所増設工事 安全祈願祭が行われる



七月二日(金)に、福島県酪農業協同組合本所増設工事の際に安全祈願祭が行われました。当日は、斎主として長屋神社 宮司 小松中氏、工事関係者として株式会社共立建築設計事務所、光建設株式会社の方々にお越しいただき、式を執り行いました。

一連の儀式を執り行った後、紺野宏組長より「本事務所も三十数年の間に三回の水没を経験した。その度に、職員の命と組合並びに組合員の財産をいかに守るかということが課題だった。また、組合の機構改革の一環として、本所に職員を集約することとなった。本来ならば完成後の集約としたかったが、順番が前後してしまった。一刻も早い完成を皆で待ちたいと思う。本組合は県内の生乳生産を担う確固とした組織で



あり、事務所は組合の顔と言える。それに相応しい建物になってくれることを切に希望します。」とご挨拶いただきました。

その後、光建設株式会社 吉田光徳代表取締役より「幼いころから組合の乳製品が好きで、その事務所の増築工事に携われたことがこの上ない喜び。これから工事に入りますが、共立建築設計事務所のご指導の下、ご期待に添えるよう、弊社の持てる技術を全て結集し、全力で取り組みます。」とご挨拶いただきました。

新事務所は今年の十二月上旬完成予定であり、水害被害による滞りがなくなることが期待されます。



ミルクキャンペーン!!

福島県牛乳普及協会

福島県牛乳普及協会では、福島県産の牛乳・乳製品のPRのためTwitterを開設しました。

7月下旬から8月末まで「#やっぱ牛乳でしょ」をテーマにミルクキャンペーンを開催します。牛乳には「これでしょ!!」という言葉や写真などを、#(ハッシュタグ)をつけて、「#やっぱ牛乳には○でしょ」と投稿して下さい。

抽選で牛乳・乳製品をプレゼントします。ぜひ、ご応募よろしくお願いたします。

牛乳普及協会 Twitter QRコード
アクセスはこちらから →



指導推進課コラム

8月

サイレージ内を成分分析で見る

先月号ではサイレージの基礎知識や調整方法について説明しました。関連して、今月号では出来上がったサイレージの評価について、分析結果等をもとに説明していきたいと思ひます。

サイレージの評価

先月号のおさらいになります。サイレージとは主に乳酸菌など空気を嫌う細菌（嫌気性菌）の力を借り、飼料中の糖などを乳酸に変えることでpHを低下させ、安定的な長期保存を可能にした飼料のことです。

つまり最終的にサイレージを評価するにあたり、サイレージ内の発酵がどれだけ進んでいるかをチェックすることが、一つのサイレージ評価の指標にあたります。

飼料成分分析で発酵品質をチェック

発酵品質（オプション分析）	T-N中	原物中	乾物中
pH	-	3.59	-
ぎ酸	%	0.01	0.02
乳酸	%	1.67	5.11
酢酸	%	0.40	1.21
プロピオン酸	%	0.01	0.03
酪酸	%	0.00	0.00
吉草酸	%	0.00	0.00
VBN（揮発性塩基窒素）	%	4.84	0.02
Vスコア	点	98	

図1. 良い発酵品質（デントコーン）

発酵品質（オプション分析）	T-N中	原物中	乾物中
pH	-	5.01	-
ぎ酸	%	0.00	0.00
乳酸	%	0.32	1.13
酢酸	%	0.12	0.41
プロピオン酸	%	0.00	0.00
酪酸	%	0.76	2.64
吉草酸	%	0.00	0.00
VBN（揮発性塩基窒素）	%	15.19	0.10
Vスコア	点	29	

図2. 悪い発酵品質（デントコーン）

上に示した図は、2つのデントコーンサイレージの成分分析結果（発酵品質）です。様々な項目が並んでいますが、発酵品質の評価において重点を置く項目を下記にて説明します。

- p H**：乳酸発酵が順調に進めばpHが4.2以下となり、酪酸菌やカビの活動を抑えることができます。図1はpHが3.59となっているため順調な乳酸発酵だと評価できますが、図2ではpH5.01と乳酸発酵が不十分です。
- 乳 酸**：サイレージ調整において最も重要な有機酸です。乳牛にとって重要なエネルギー源ともなりますが、乳牛への過剰給与は過肥につながるとも言われています（飼料全体乾物中4%以上）。
- 酪 酸**：乳牛の嗜好性を低下させたり、ケトosisを引き起こしたりとサイレージ内での厄介者となります。100~200g/日の酪酸を摂取した牛は重度のケトosisを発症することも知られておりますので、表1にて給与ガイドラインを示します。
- V B N**：揮発性塩基窒素を示しており、腐敗の指標となります。アンモニア等タンパク質の分解後成分がこれらに含まれ、乳牛の嗜好性低下、乾物摂取量の低下を引き起こします。含有量は0に近いほど理想ではありますが、T-N中10%以下が目標値となっていますので、図2のサイレージは腐敗が進んでいると判断できます。主に好気性の雑菌によりサイレージ中のVBNは増加しますので、再三になりますがサイレージ調整の際は適切な密封作業を心がけましょう。
- Vスコア**：サイレージ内の発酵生成物質を総合的に評価した点数を示しています。正確な計算式については省略しますが、Vスコアとは減点方式での算出となっており、サイレージ中に酪酸とVBNが多いほどVスコアは低い点数となります。80点以上を「良」、60~80点で「可」、60点以下で「不可」と判断します。図1は酪酸とVBN含量が少ないため高いVスコアとなっておりますが、図2については酪酸、VBNともに高含有となっているためにスコアは低くなります。

サイレージ中酪酸含量 (原物中%)	給与可能量 (1日1頭100g以下)
0.1%	制限なし
0.5%	20kg以下
1.0%	10kg以下
1.5%	7kg以下

表1. サイレージ中酪酸含量と給与可能量（牧草と園芸 第56巻第5号より）

カビ毒に注意！

サイレージ内の招かれざる成分にカビ毒があります。カビ毒とはカビから産出される毒素のことで、別名「マイコトキシン」とも呼ばれています。「カビ」については目で見ることはできますが、「カビ毒」は化学物質であるため目で見ることはできないことが厄介な点です。

以下に代表的なカビ毒について記載します。



アフラトキシン

カビ毒の中でも最も強力な経口発ガン性物質。汚染された牛の乳汁に移行する。しかし、アフラトキシンを産出するカビは日本にほとんど存在せず、また輸入穀物には厳格な検査が行われているため、日本での検出はほとんどない。



トリコテセン系カビ毒

家畜の粘膜に影響を与えるため、嘔吐、軟便、下痢、血便、鼻水をもたらす。このカビ毒を産出するカビは、日本を含む温暖寒冷地域の土壌に広く分布しており、特に**コーンサイレージ**から検出されることが多い。



ゼアラレノン

外陰部肥大、流産等各種の繁殖障害の原因となる。このカビ毒を産出するカビは、日本を含む温暖寒冷地域の土壌に広く分布しており、特に**グラスサイレージ**から検出されることが多い。

牛はルーメン（第一胃）でカビ毒をある程度無毒化できると言われていますが、ルーメンが未発達の子牛や、ルーメン通過速度の速い高泌乳牛は無毒化能力が低いいため要注意です。

農場でできるカビ毒対策

- ①カビ汚染が目で確認できる飼料の給与を控える
→上記のカビ毒についても飼料成分分析にて確認することが可能ですので、不安な場合は分析を推奨します（図3）
- ②カビの温床にならないサイレージ調整を心がける
→カビのほとんどは好気性菌のため、適切な密封でサイレージ内を嫌気条件にしましょう
- ③カビ毒吸着剤を使用する
→様々な製品が販売されていますが、特定のカビ毒にしか効果を示さないものもありますので、成分分析結果をもとに使用製品の選定を行うことが望ましいです。

かび毒一斉分析

項目名	単位	原物中	乾物中	定量下限 (乾物中)	分析法
アフラトキシンB1	mg/kg	検出せず	検出せず	0.004	高速液体クロマトグラフ 質量分析法
アフラトキシンB2	mg/kg	検出せず	検出せず	0.004	
アフラトキシンG1	mg/kg	検出せず	検出せず	0.01	
アフラトキシンG2	mg/kg	検出せず	検出せず	0.01	
ゼアラレノン	mg/kg	検出せず	検出せず	0.005	
デオキシニパレノール	mg/kg	検出せず	検出せず	0.1	
ニパレノール	mg/kg	検出せず	検出せず	0.3	

図3. カビ毒成分分析例

今月はサイレージ評価について説明いたしました。サイレージ内の発酵産物はどれも牛の生産性を左右するものばかりです。適切な給与を行うために定期的成分分析を行い、更なる良質サイレージの生産を目指していきましょう。今月もありがとうございました。

ZENOAQ コーナー Vol.200



ビタミンA・Eと 微量ミネラル特に亜鉛に注目

〒963-0196
 福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1
 日本全薬工業(株) 福島営業所
 TEL024-945-2306 FAX024-945-9345

各種ビタミンの主な働き

ビタミンA

正常な視覚に不可欠⇒欠乏症：夜盲症。骨の発達や粘度（鼻腔・膈...）の維持。繁殖機能を助ける。

β-カロチンから酵素によってビタミンAに転換される。この酵素には銅が含まれている為、銅の欠乏はビタミンAの欠乏につながりやすい。また、飼料中の硝酸塩もビタミンAと結合し、ビタミンAを無力化する。

ビタミンD

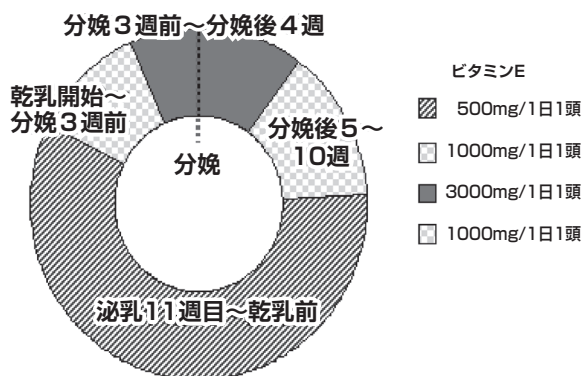
日光浴（紫外線）が皮膚でのビタミンD合成を刺激する。小腸でのカルシウムとリンの吸収を刺激する。生体内で動く為には活性型ビタミンD₃となる必要がある。

ビタミンE

セレンと共に生体内で「抗酸化作用」を示す。特に細胞レベルでの十分な免疫機能を維持するのに必要。不足すると繁殖障害⇒受胎率低下・胎盤停滞・卵巣のう腫、感染症⇒乳房炎・高体細胞、などのリスクが高まる。

参考：Milk Them...Their Worth! / Donald E Sandera..

ビタミンE給与のガイドライン



ビタミンは何を基準に考えるべき？

免疫反応レベルで考えよう。

ビタミンの要求量

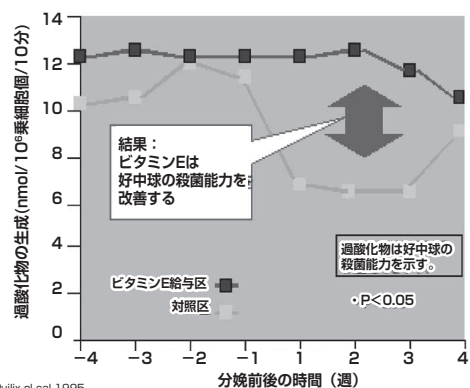
ビタミンをはじめ微量ミネラルなどはいわゆる欠乏症が知られています。したがって、その要求量も欠乏レベルを超えるという発想にとらわれがちです。欠乏しなければ良いという考えには賛成しかねます。

日本飼養標準やNRC飼養標準などを見るとそこには各種ビタミンの必要量（推奨）が掲載されています。

ビタミンの要求量を定める最も良い方法はその動物の「免疫能力」がビタミンの不足によって損なわれるレベルを見つけることです。この方法で考えると、現在の推奨量よりもビタミンAの要求量は1.5倍、ビタミンEの要求量は5倍（乾乳牛では7倍）にもなると考えられています。

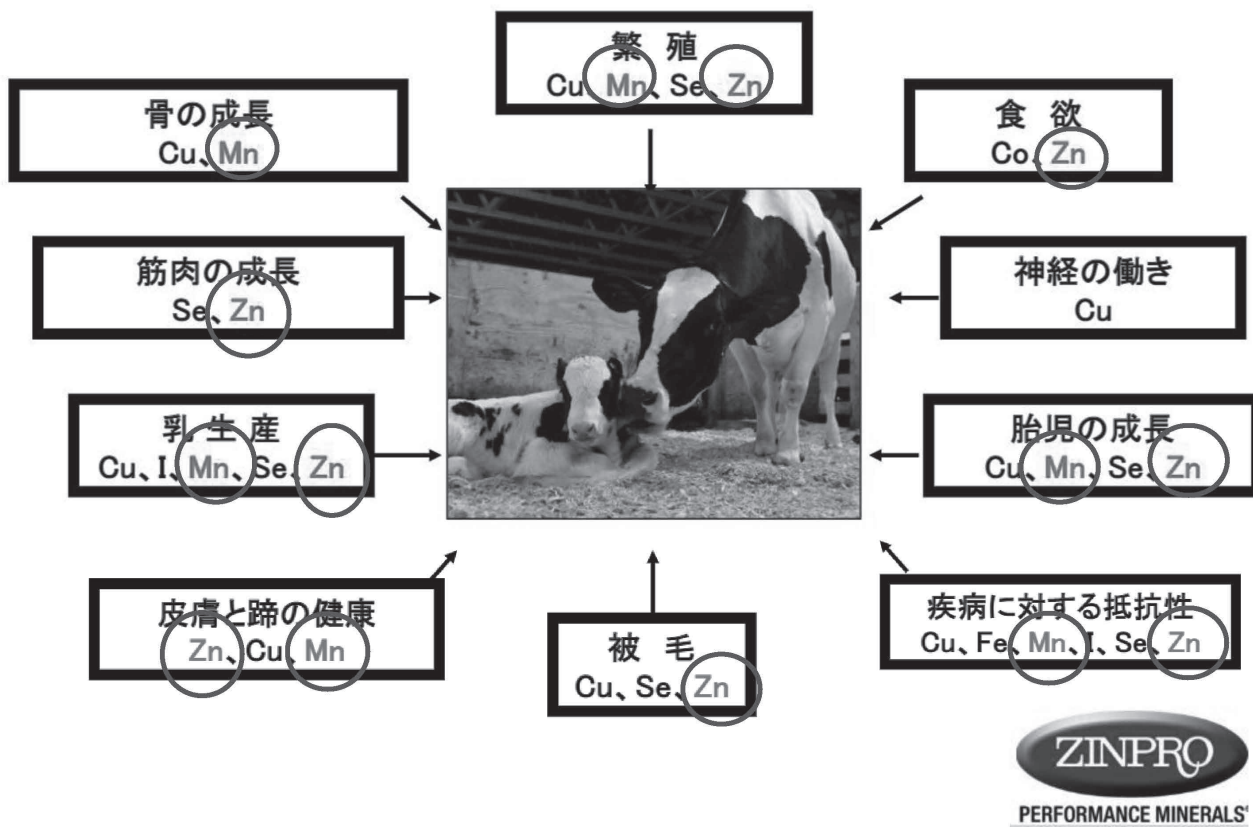
免疫抑制と乳牛の健康

対照区とビタミンE給与区の乳牛の血中好中球による過酸化物の生成



生産成績を最大限に高めるための微量ミネラル 亜鉛、マンガンの利用率の高いジンプロ社の有機ミネラル

なぜ微量ミネラルの給与が必要か？



新製品紹介

高機能のビタミンやミネラルを配合 新しい混合飼料



【原材料名】

リン酸カルシウム、米ぬか油かす、炭酸カルシウム、米ぬか、糖蜜、ベントナイト、アルファルファミール

【含有する飼料添加物の名称】

ビタミンA油、ビタミンD3油、酢酸dl-α-トコフェロール、硝酸チアミン、リボフラビン、シアノコバラミン、ニコチン酸、D-パンテトン酸カルシウム、塩化コリン、ペプチドマンガン、ペプチド亜鉛、ペプチド銅、硫酸コバルト、プロピオン酸カルシウム（プロピオン酸として0.1194%）

【給与方法】

牛用飼料に通常1日1頭当たり下記の量を添加、混合して与えて下さい。
牛：50~100g



全酪連の小窓 8月号 ～哺育管理～

分娩が増えてくる時期になりました。子牛の時期にどれだけ適切な管理ができるかによって今後の生産性にも影響します。

さて、今回は哺育管理についてお話したいと思います！

◎ 出生直後の子牛管理5原則

① 酸素の確保

- ・鼻孔から膜や粘液を取り除く。
- ・鼻腔を拭く、ワラで鼻腔をくすぐるって自発的呼吸を刺激しましょう。



② 臍帯（へその緒）の消毒

- ・臍帯を7%ヨードチンキで洗い流し、殺菌・乾燥させる。

※ 1 乳頭ディッピング剤では殺菌力が弱く不十分です。

2 スプレーによる塗布は不完全なので**完全に浸せるディップタイプ推奨**。

3 へその緒を完全に乾燥させるために、産後12時間を目安に再びディップ。

臍の緒が見えない、肥大している場合には2～3日間ディップして、断端部分を完全に乾燥させましょう。この作業をおろそかにすると、臍帯感染から敗血症や臍帯炎になり最悪の場合、死亡してしまう可能性が高まります。



③ 体を乾燥させる

- ・産まれて間もない子牛は下限温度が15℃と低いため、寒さに非常に弱いです。
- ・母牛に舐めてもらう、もしくは乾いたタオルで十分拭き取り、体毛を常に乾燥直立させておくことが、体温維持にとっても重要です。



④ 母牛から隔離する（ハッチャペンに移動）

・子牛に母牛が授乳させたりすると、初乳の衛生面や摂取量が把握できません。その為には、なるべく早めに母牛から離して、人間の管理下に置いて人間との信頼関係を作ることが重要です。



⑤ 初乳の給与

・生後6時間以内に初乳を4ℓ（1回目は生後直後に2ℓ+6時間後に2ℓ）、24時間以内に2ℓ追加給与しましょう。

・新生子牛は免疫機能を有しておらず、感染に対して無防備です。**子牛の体内に先に初乳が入るか、細菌が入るかが勝負**となります。

・生後6時間を過ぎると吸収効率が低下し、12時間後には更に低下します。

・難産なので飲みが悪い場合はストマックチューブでの強制投与も有効な手段です。



ZENRAKUREN

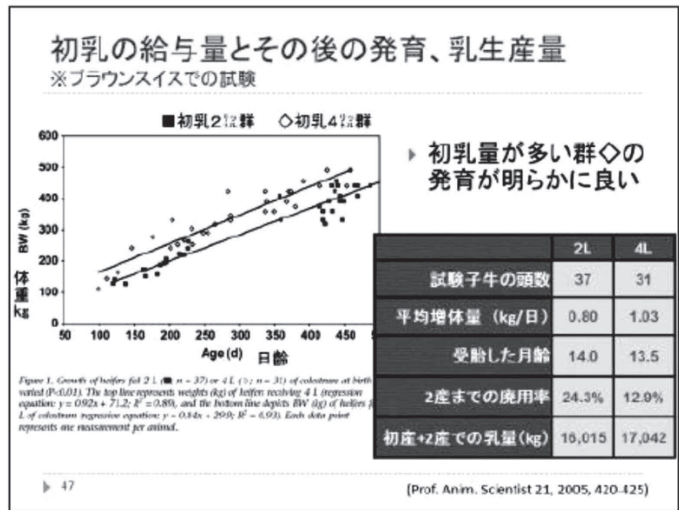
Your Partner 全酪連

ZENRAKUREN



◎ 初乳摂取量と生産性

- ・右図は1回目の初乳給与量が2ℓの群と、4ℓの群の牛たちを追跡した試験結果の表です。
- ・1回目の初乳給与量以外は全く同じように飼養されたのですが、4ℓ群の方が発育が良く、乳量生産も良好で2産までの廃用率が低いという結果が出ています。
- ・初乳給与のひと手間はその後の牛の生産性に大きく影響を与えることがわかります。



◎ 初乳の品質

一般的には、初産牛よりも経産牛のほうが初乳の量・質ともに多い傾向があります。

現場で初乳の品質を確認する方法として、Brix計（糖度計）があります。計測して**20度以上あると良質初乳**としてみます。度数が高いほど初乳の品質が良いとされてます。

Brix計は使用方法も使いやすく、ネットなどでは数千円で購入できます。農場で計測すればうまく初乳を活用できるかもしれません。



◎ 初乳給与プログラムチェックリスト

第1回目

- 生後30分以内で2ℓ。
- できるだけ飲ませる

※難産の場合

- 2～3時間休ませて、初乳給与
- それでも飲まない場合、生後6時間以内に強制投与（ストマックチューブなどで）

第2回目

- 生後6時間以内。12ℓを追加。

総量では…

- 生後24時間以内に5～6ℓを、数回に分けても給与。
- 血乳、初乳が薄いなど、良質な初乳が手に入らない時は、凍結初乳・粉末初乳（本会製品「**グッドスタートプレミアム**」）を給与。

グッドスタートプレミアムの給与方法

- ① 出生直後に**2袋を45～50℃のお湯2ℓで溶かして40℃前後**で清潔な哺乳瓶などで給与しましょう。
- ② 出生6～8時間後、1袋を1ℓのお湯に溶かして哺乳瓶などで給与。
- ③ 更に子牛が初乳を飲めるのであれば、**可能な限り飲ませましょう。**

給与方法や給餌メニューでご不明な点がございましたら、全酪連スタッフや福島県酪職員へご相談ください！

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

令和3年6月30日現在

区 分	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	戸数	前年度戸数	前年比	育成	初妊	経産牛				合計	前年度頭数	前年比	1戸当り頭数
						乾乳妊娠	妊娠搾乳	空胎搾乳	小計				
県北支所	35	35	100.0	484	255	176	519	762	1,457	2,196	2,204	99.6	62.7
県中支所	65	73	89.0	286	154	153	412	811	1,376	1,816	1,915	94.8	27.9
浜支所	7	7	100.0	80	37	24	57	117	198	315	321	98.1	45.0
県南支所	40	41	97.6	693	294	269	697	936	1,902	2,889	2,876	100.5	72.2
県酪合計	147	156	94.2	1,543	740	622	1,685	2,626	4,933	7,216	7,316	98.6	49.1

区 分	月 別 分 娩 予 定 頭 数							販 売 乳 量											
	令和3年7月		令和3年8月		令和3年9月		令和3年10月		令和3年11月		令和3年12月		令和4年1月		生乳出荷戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	1日当り	1日1戸当り		搾乳牛	経産牛		
県北支所	107	150	133	161	148	132	119	32	37,215	1,163	29.1	25.5							
県中支所	105	86	118	104	88	88	130	65	31,652	487	25.9	23.0							
浜支所	17	22	19	14	16	15	15	7	5,171	739	29.7	26.1							
県南支所	166	176	175	173	163	170	237	40	46,938	1,173	28.7	24.7							
県酪合計	395	434	445	452	415	405	501	144	120,976	840	28.1	24.5							

令和3年度受託乳量の状況

令和3年6月の受託乳量は、県全体で前年比100.2%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,629トﾝ、前年比103.8%（対前年同134トﾝ増）、全農県本部は1,564トﾝの対前年比92.6%（対前年同月125トﾝ減）の実績で

ありました。

東北生乳販連の受託販売実績については、前年比99.3%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比102.1%となりました。

令和3年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

東北全体の用途向け販売数量について、昨年は新型コロナウイルス感染症流行による小中学校休校により、学乳向けの販売数量が大幅に減少していましたが、今年度は小中学校で通常授業が行われ学乳向けの販売数量が元に戻った影響で、前年比で学乳向けが94.2%と例年並みに推移しました。学乳向け以外の各用途向け販売数量は、前年比で加工向けが115.6%と前年を上回り、飲用向けが99.2%、醗酵乳

向けが97.8%、生クリーム向けがと78.1%、チーズ向けが99.2%と前年を下回り推移しました。

引き続き、福島県産牛乳・乳製品の消費拡大にご協力をお願い致します。

なお、今月の酪王乳業の生乳使用量は日量平均54.1トﾝ（前年比93.8%）で、本組合生産量の44.8%、県全体生産量の31.3%の処理量となりました。

令和3年度6月別支払乳価表

令和3年度の販売乳価は、全用途で前年度価格据え置きとなりまし。

今月のプール乳価・補給金・集送乳調整金を含めた支払乳価は、前年より63銭4厘下回る単価となりました。前年については、小・中学校休校に伴う学校給食停止と飲食店や宿泊施設利用自粛に伴う業務用牛乳・乳製品使用の急速な減少により、加工向けが急増し手取り乳価は減少しましたが、今年は学校や各施設の再開により、加工向けに仕向けられていた生乳が乳価の高い学乳向けに仕向けられた影響で、手取り乳価が増加しております。

全国の新型コロナ感染者数が減ることが、人・物が今までとおり動き出し、経済も回復し、結果、牛乳・乳製品の消費回復と乳価が上がることにつながっていきます。沖縄県と東京都では、8月22日まで緊急事態宣言が延長されたのに加え、一部都道府県で実施されていたまん延防止等重点措置についても、8月22日まで実施期間が延長されています。また、福島県内では5月15日から5月31日にかけて発令されていた非常事態宣言現在は解除されていますが、現在でも県内での感染者が複数出ていることもあり、まだまだ油断できない日々が続いております。感染症対策を徹底し、皆さんで新型コロナが終息するまで頑張りましょう。医療従事者皆様のご苦労については感謝申し上げます。

(東北全体6月)

用途別	販売乳量(トン)	日量(トン)	前年比(%)	シェア(%)	前年度シェア
飲用向け	28,737	958.0	99.2	67.9	68.0
加工向け	3,043	101.0	115.6	7.2	6.2
学校給食向け	2,842	95.0	94.2	6.7	7.1
醗酵乳向け	7,133	238.0	97.8	16.9	17.1
生クリーム向け	430	14.0	78.1	1.0	1.3
チーズ向け	138	5.0	99.2	0.3	0.3
合計	42,323	1,411.0	99.3	100.0	100.0

備考 1) 買取乳量を除く

- 東北全体プール乳代金 4,379,336千円 単価110.923円
- 内 福島県分プール乳代金① 503,790千円 単価110.923円
- プール対象外乳代金② 92,327千円
- (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 596,117千円 単価114.798円

項目	令和3年6月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	112円129	112円859	-0円730	109円351
補給金単価	0円713	0円640	0円073	0円680
集送乳調整金単価	0円218	0円195	0円023	0円204
合計	113円060	113円694	-0円634	110円235

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

団体別受託乳量の状況

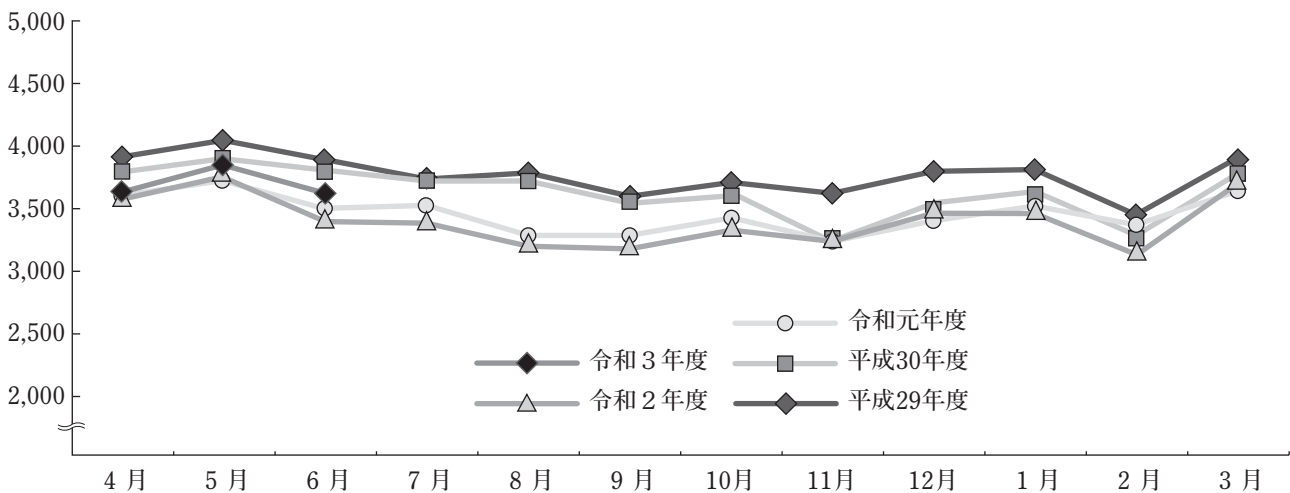
北海道：102.6%、都府県：101.5%

団体名	6月分		
	受託乳量(トン)	日量(トン)	前年比(%)
県酪協	3,629	121.0	103.8
全農福島県本部	1,564	52.1	92.6
合計	5,193	173.1	100.2
東北生乳販連	42,323	1,410.8	99.3
全国	607,866	20,262.2	102.1

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	3,958	4,132	3,940	3,880	3,778	3,622	3,740	3,637	3,797	3,820	3,498	3,948	45,750
30年度	3,865	3,927	3,768	3,758	3,757	3,565	3,617	3,385	3,572	3,687	3,369	3,818	44,091
令和元年度	3,661	3,736	3,526	3,528	3,380	3,391	3,495	3,349	3,477	3,589	3,442	3,735	42,310
令和2年度	3,642	3,739	3,495	3,482	3,363	3,310	3,458	3,341	3,505	3,549	3,268	3,723	41,874
令和3年度	3,693	3,859	3,629										
前年比%	101.4	103.2	103.8										

単位・トン



年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和3年度	110.502	111.609	113.060										
令和2年度	108.959	110.268	113.694	113.625	112.257	114.269	113.489	112.845	111.265	111.109	112.190	109.876	111.986
令和元年度	107.825	109.442	110.235	109.707	109.001	110.834	113.758	112.804	110.935	111.470	112.026	108.238	110.523
30年度	105.316	106.566	107.245	106.734	104.684	108.041	107.673	107.183	104.902	105.545	106.664	104.358	106.242
29年度	105.107	106.247	107.367	106.918	104.637	107.789	107.187	107.002	104.876	105.603	106.317	104.647	106.141

第309回 県酪協乳牛市場成績

令和3年7月13日開催

購買者数 19名（うち県外15名）

区分	畜種	雌雄	成立数 (成立率)	最高価格 最低価格	平均価格 (前回比)	平均体重 (前回比)	平均単価 (前回比)	
ET和牛 初生牛	ET和牛	メス	3 (100)	479,000 468,000	472,000 (98)	106 (91)	4,453 (108)	
		雄	12 (100)	630,000 374,000	500,333 (103)	104 (103)	4,792 (100)	
	乳牛	メス	3 (100)	83,000 50,000	71,333 ()	65 ()	1,092 ()	
		雄	46 (100)	213,000 25,000	170,783 (101)	80 (103)	2,148 (99)	
	交雑牛	メス	55 (100)	303,000 103,000	238,200 (122)	76 (100)	3,147 (123)	
		雄	68 (100)	351,000 178,000	269,338 (100)	80 (103)	3,358 (98)	
	初妊牛			20 (100)	870,000 330,000	515,500 (79)		
	搾乳用雌子牛			12 (75)	309,000 200,000	252,083 (72)		

価格：円（落札価格） 率・比：% 体重：kg

初生牛の畜種毎価格帯別分布表

（0は0.1～0.9万円、1は1.0～1.9万円、以下同様。尚、落札価格です）

畜種	雌雄	価格帯(万円)																									
		<37	~41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63		
ET和牛	メス							2	1																		
	雄			1			2					3			1		1								1	1	
乳牛	雌雄	価格帯(万円)																									
		0<	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
乳牛	メス					1			2																		
	雄			1							1		1	1	4	3	8	7	7	7	5	1					
交雑牛	雌雄	価格帯(万円)																									
		<12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
交雑牛	メス	1		1		1	1	1	3	7	1	3	2	8	7	8	6	2	1	2							
	雄					1	1		2	1	1	4	4	11	11	11	5	4	5	2		2	2	1			

初妊牛・搾乳用雌子牛の価格帯別分布表

価格帯(万円)	<39	40	~43	~48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	~87			
初妊牛	5	1		1		1	1	1	1				2			1	3		1	1			1		
価格帯(万円)	<6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
搾乳用雌子牛															3			1	2		3		1		2

組 合 の 動 き 7 月

7月5日	全酪連ブロック会議 (WEB)	7月13日	乳牛せり市場
7月5日	経営検討会	7月14日	地区運営委員会 (県中地区)
7月6日	東北生乳販連 事業推進委員会 (WEB)	7月15日	臨床研究会
7月7日	三役委員長合同会議	7月19日	三役・代表監事・部長室長会議
7月7日	第4回理事会	7月20日	全酪連通常総会 (書面)
7月7日	県酪女性部やまびこ会役員会	7月20日	全酪連理事会
7月7日	酪王乳業(株)取締役会	7月20日	福島県乳牛改良推進協議会理事会
7月7日	(株)らくのう乳販取締役会	7月20日	損害賠償対策協議会
7月8日	J A 福島中央会損害賠償県協議会	7月21日	東北生乳販連通常総会 (WEB)
7月8日	福島県乳業再編協議会合併契約締結	7月21日	地区運営委員会 (県北地区)
7月9日	東北生乳販連理事会 (WEB)	7月27日	F D 24会通常総会
7月9日	地区運営委員会 (県南地区)	7月28日	酪王乳業(株)臨時株主総会
		7月28日	経営検討会

理 事 会

第4回 令和3年7月7日

議 案

報告事項

議案第1号 酪王乳業(株)の東北協同乳業(株)との合併に伴う役員候補者の推薦と合併契約書の承認について

議案第2号 夏季手当の支給について

議案第3号 事業実績報告の変更について

- 1) 復興牧場 (シャインコースト(株)) の進捗状況について
- 2) 今後の日程について
- 3) 復興牧場 (シャインコースト(株)) 現地視察について
- 4) 乳用牛供用年数延長支援対策 (J ミルク事業) について





『ほっとMilk』投稿募集について

1. テーマは自由（ほっと(^o^)/する話題がいいですね）
 ◎文章だけでも結構です。
 ◎写真があると最高です。
2. 受付（常時受け付けしています）
 メール・FAX・支所経由・直接持参、何でもOKです。
E-mail : yuuki-saitou@fukuraku.or.jp・FAX0243-33-1103

発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 佐藤 幸光

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>